

第1期 事業報告書

一般社団法人 We Can

報告対象期間：令和7年2月14日～令和7年12月31日

所在地：東京都品川区旗の台5-13-1

代表理事：青山 昌弘

1. 今期の総括

令和7年2月14日、一般社団法人 We Canは「経済的に困難な子育て世帯の子どもたちが前向きに生きていける社会」を目指して設立されました。本法人は、親子で楽しい時間を過ごす体験活動を通じて、前向きに生きていくキッカケを提供すること、そして必要に応じて行政や支援団体の支援サービスにつなげること、さらには経済的に困難な子育て世帯を孤立させないことを目的としています。

設立初年度となる今期は、活動資金の確保を最優先課題として取り組みましたが、残念ながら目標とする寄付の獲得には至りませんでした。そのため、当初計画していた体験活動の実施は見送らざるを得ない状況となりました。

しかしながら、この厳しい現実直面したことで、私たちは持続可能な支援の形を根本から再考する機会を得ました。体験支援の提供方法として中古住宅を拠点に活用するという具体的なビジョンを固めることができました。また、限られた条件の中でも、SNSを通じた情報発信の基盤整備、寄付受付窓口の設置、そしてホームページの制作準備など、次のステップに向けた組織基盤の構築を着実に進めてまいりました。

今期は、次年度の拠点確保と本格的な活動開始に向けた重要な助走期間となりました。厳しいスタートではありましたが、私たちの想いに共感してくださる方々との小さなつながりを築くことができた一年でもありました。

2. 事業の実施状況

今期は大規模な事業実施には至りませんでした。次年度以降の本格的な活動開始に向け、組織の土台作りと事業モデルの精査に取り組みました。

2-1. 団体立ち上げに伴う組織整備

一般社団法人としての設立手続きを完了し、定款の策定、登記申請、銀行口座の開設など、法人運営に必要な基本的な体制を整えました。設立初年度として、今後の継続的な活動を見据えた組織基盤づくりに取り組みました。

2-2. クラウドファンディングの実施

設立直後、開業資金とランニングコストの確保を目的として、READYFORを通じたクラウドファンディングを実施しました。残念ながら目標達成には至りませんでした。支援者にもどのように想いを届けるべきか、ターゲット層へのアプローチ方法など、今後に向けた課題を明確にする重要な機会となりました。

2-3. 体験支援事業に関する企画・検討

経済的に困難な子育て世帯や子どもたちにとって、どのような体験が前向きな気持ちにつながるのかを検討し、事業の方向性について議論を重ねました。特に、中古住宅を拠点として購入し、複数の家族が参加できる2~3泊の宿泊型体験活動を提供するというモデルについて、実現可能性や必要な資金規模を精査しました。

2-4. 低所得世帯を取り巻く課題や情報収集

体験格差や経済的に困難な子育て世帯を取り巻く現状について情報収集を行い、支援のあり方や必要とされている関わり方について理解を深めました。既存の支援制度の状況や他団体の取り組み事例なども参考にしながら、私たちが提供できる価値について検討しました。

2-5. 今後の事業実施に向けた体制や運営方法の検討

無理のない形で事業を継続していくため、資金調達の方法、ボランティアや協力者との連携体制、行政や他の支援団体とのネットワーク構築など、運営体制や事業実施方法について検討を行いました。

これらの取り組みを通じて、私たちに何ができるのか、どのような形で関わるのが最も意味のある支援につながるのかを、改めて考える時間となりました。

3. 広報活動およびご支援の状況

3-1. 資金調達活動

設立直後、開業資金とランニングコストの確保を目的に、クラウドファンディングプラットフォーム「READYFOR」にて資金調達キャンペーンを実施しました。残念ながら寄付額は0円、支援者数も0人という結果に終わりました。

この結果を真摯に受け止め、告知方法や告知不足、また周囲を巻き込んで実施できなかったことが主な原因であると認識しました。私たちの活動内容や想いを効果的に伝えるための広報戦略、そして支援者を巻き込むためのアプローチ方法について、今後の大きな課題として捉えています。

3-2. 継続寄付の窓口整備

今後の継続的な支援を受け入れるため、寄付プラットフォーム「Syncable」に寄付受付窓口を開設しました。今期の寄付実績はありませんでしたが、次期以降の資金調達の基盤として機能させていく予定です。

3-3. SNSを通じた情報発信

FacebookおよびX(旧Twitter)の公式アカウントを開設し、情報発信を開始しました。

- Facebook: フォロワー数 28人
- X: フォロワー数 18人

年度前半は活動報告や団体紹介の投稿を行いましたが、後半は組織基盤整備に注力したため投稿頻度は低下しました。フォロワー数は少数ではありますが、私たちの活動に関心を持ってくださる方々とのつながりの第一歩を築くことができました。

3-4. ホームページ制作(進行中)

団体の理念や活動内容をより詳しく伝え、支援者層へ効果的にアプローチするため、現在ホームページを制作中です。完成次第、本格的な広報活動を展開していく予定です。

3-5. 代表理事による情報発信の準備

noteを活用した代表理事個人によるブログの開設準備を進めています。公式な団体広報とは別に、代表理事の個人的な視点から、活動への想いや子育て世帯を取り巻く課題への気づき、日々の考えなどを発信していく予定です。より身近で率直なコミュニケーションを通じて、活動への共感を広げていくことを目指します。

3-6. 寄付者・会員の状況

- 寄付者数: 0人

4. 財務の状況

収支の概要:

今期は資金調達が実現せず、寄付金収入は0円となりました。設立に関わる法定費用および活動維持に不可欠な事務経費については、自己資金等にて補填いたしました。

詳細につきましては、別紙「貸借対照表」「活動計算書」をご参照ください。

財務面での厳しい状況が続いていることは事実ですが、次期以降、ホームページの完成を契機に寄付者の獲得に本格的に取り組み、持続可能な組織運営の基盤を築いてまいります。

5. 組織運営の状況

5-1. 役員構成

- 代表理事: 青山 昌弘
- 理事: 2名（うち代表理事1名）
- 監事: なし
- 役員の異動: なし

5-2. 社員総会・理事会の開催

今期は定時社員総会を開催しておりません。決算承認を含む第1回定時社員総会は、期末後に開催予定です。

設立初年度であり、かつ具体的な事業活動の実施がなかったため、理事間での随時協議により組織運営を進めてまいりました。

6. 次期に向けた課題と方針

6-1. 最重要課題:寄付者200人の獲得

次期（令和8年度：令和8年1月1日～12月31日）の目標は、寄付者200人の獲得です。現在制作中のホームページを完成させ、私たちの想いや活動計画を明確に伝えることで、経済的に困難な子育て世帯を支援したいという志を共にする方々にアプローチしてまいります。クラウドファンディングでの経験を活かし、ターゲット層の明確化、メッセージの改善、効果的な発信方法の検討を進めます。

6-2. 体験活動拠点の確保

寄付金が一定額に達した段階で、体験活動の拠点となる中古住宅の購入を目指します。自前の拠点を持つことには、以下のような利点があります。

- 宿泊費負担の削減により、より多くの家族に参加機会を提供できる
- 毎回の利用で使い勝手が良く、安定した運営が可能

- 小さい子どもが安全に滞在できるようリフォームできる
- 庭でBBQをしたり、みんなでご飯を一緒に食べたりと、家族的な雰囲気を楽しめる
- 参加者の保護者同士がゆっくりコミュニケーションを取れる場となる

こうした「家」のような温かい空間で、子どもたちが自由に過ごし、保護者同士もつながりを深められる拠点づくりを進めてまいります。また、拠点の使用していない期間は一般向けに貸し出すことで、事業収入の確保と地域雇用の創出も視野に入れていきます。

6-3. 広報活動の強化

- ホームページを活用した情報発信
- SNSでの定期的な投稿再開
- noteを通じた代表理事による情報発信の開始
- チラシ配布による地域への周知活動

7. おわりに

設立初年度は、資金面での大きな壁に直面し、当初描いていた活動を実現することができませんでした。支援を必要とする親子に手を差し伸べたいという想いを形にできなかったことは、私たち自身にとっても悔しく、忸怩たる思いです。

しかし、この一年間で私たちは多くの学びを得ました。活動の意義をどう伝えるか、誰にどのようにアプローチすべきか、そして持続可能な事業モデルをどう構築するか。クラウドファンディングでの厳しい結果は、告知方法や周囲を巻き込む力の不足を痛感する機会となりました。同時に、中古住宅を拠点として活用し、使用していない期間は一般向けに貸し出すという収益モデルなど、具体的なビジョンを固めることもできました。

次年度は、完成予定のホームページや代表理事によるnote発信、チラシ配布などを通じて、寄付者200人の獲得を目指します。経済的に困難な状況にある子どもたちが、「自分には無理だ」「どうせできない」と諦めるのではなく、「やってみたい」「できるかもしれない」と前を向いて生きていける。そんな社会を実現するため、We Canは歩みを止めません。

小さな一歩かもしれませんが、FacebookやXでつながってくださった皆様、私たちの活動に関心を寄せてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。次期こそ、皆様とともに子どもたちの笑顔を創り出せるよう、全力で取り組んでまいります。

今後とも、一般社団法人We Canの活動にご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和8年1月23日

一般社団法人We Can

代表理事 青山 昌弘